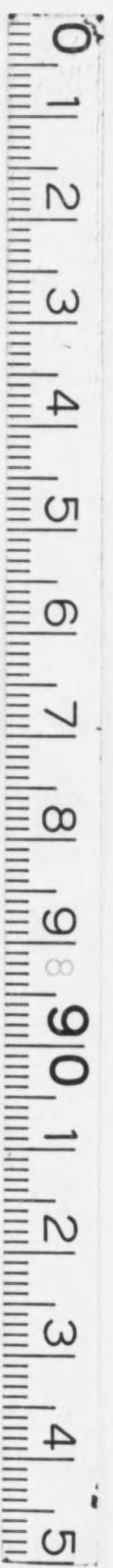


特249

8  
5

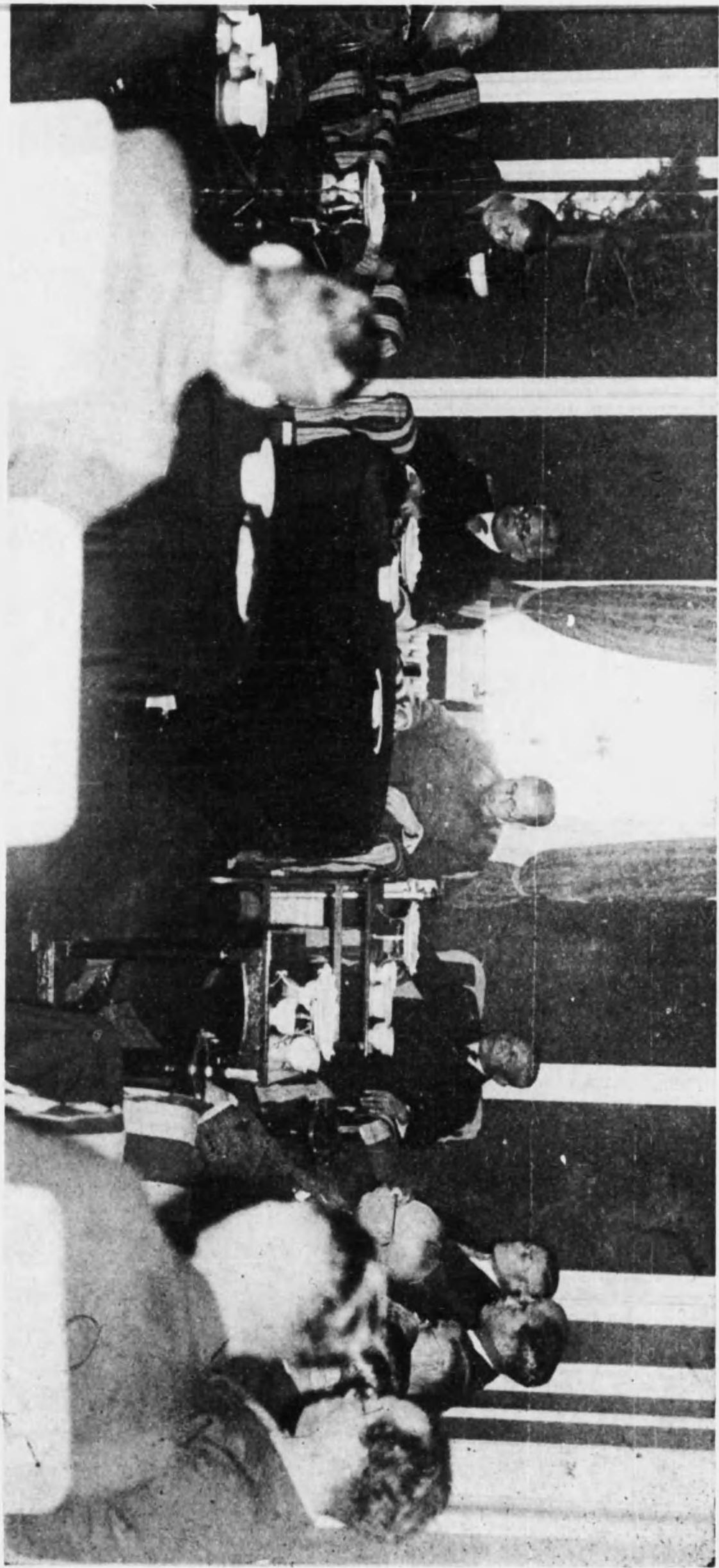
442

日本服飾文化會叢書  
第一輯

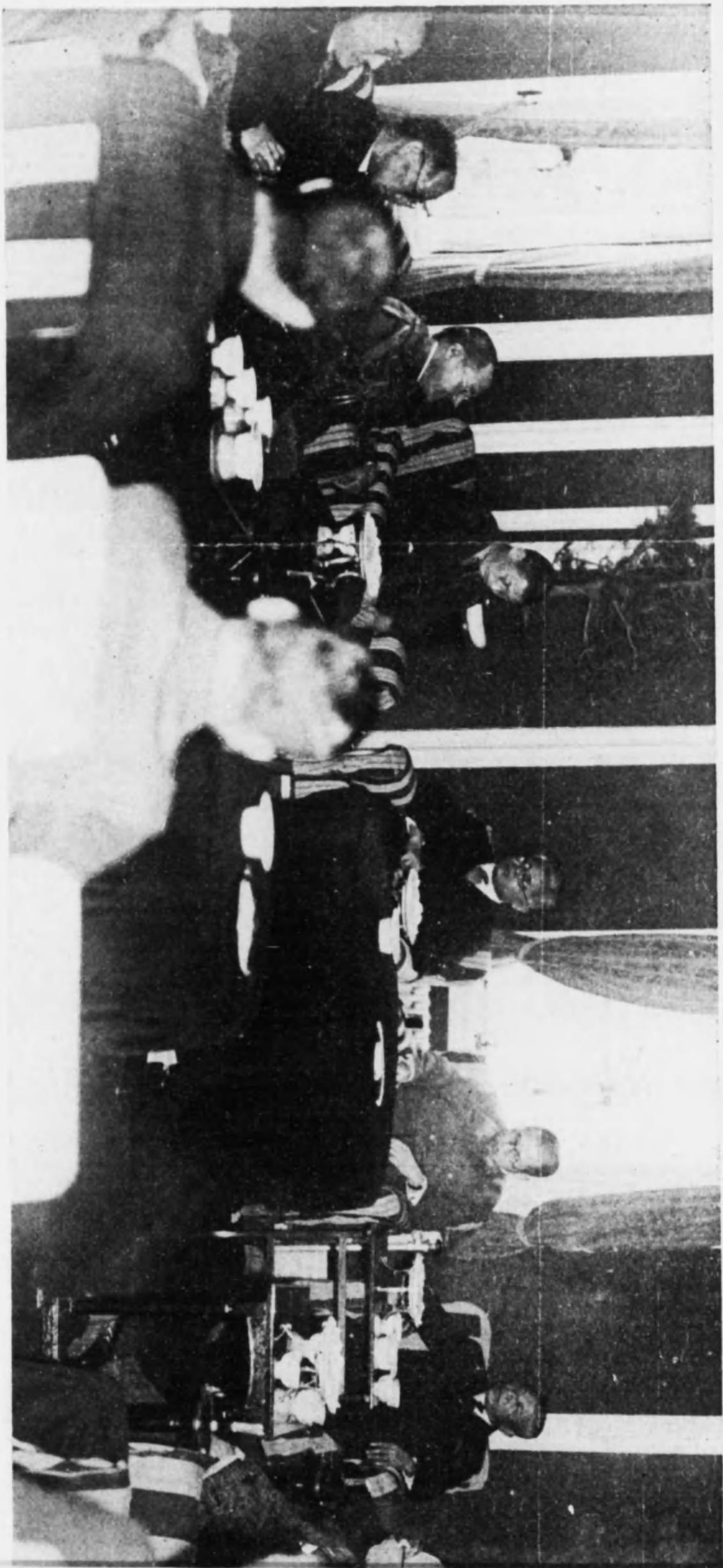


始





特249  
442



特249  
442

はしごがき

本小冊子は去る三月五日正午から京都ホテルで開催された本年第一回理事會の席上で交換された談話の一部を収録したものであるが、座談とは言へ京都染織業に對し示唆に富むもの頗る多いことを信じ、敢て冊子となし會員各位に頒布する次第である。當日の出席者は(次第不同)參謀本部課長高島辰彦大佐、參謀本部附野俊夫少佐、圓城留次郎、大里國孝、野村信三、奥村忠二郎、大橋理祐、佐野重三郎、島田勝次郎、竹上藤次郎、竹内清次郎、中村國三、矢川龜次郎、浦田芳朗、高谷貞次郎諸氏であつた。

なほ本會では座談會、講演會その他本會の主要なる事業開催の都度冊子に輯録發行して會員各位の御參考に資する筈で、本誌はその第一輯をなすものである。



昭和十五年四月

日本服飾文化會

## 皇道文化の世界光被

浦 田 芳 朗

豫て結成を急いで居りました我が日本服飾文化會は、その道の皆様の非常なる御共鳴を得て居るに拘らず、我々の微力のために段々と延引を致しましたが、本日漸く此處に第一回理事會を開催する運びに至りましたことは、誠に本懐に存する次第で御座います殊に本日は本會と因縁淺からずと申すよりは、或意味において産みの親とも申すべき高島大佐殿が偶々御入洛に相成つて居りまして、この席に御來臨を得ましたことは我々の最も心強く感ずるところであります。世間では聊か誤解もありまして、何だか本會が軍部に縋つて金儲けでもするやうに考へてゐるものもあるとか聞きますが、吾々は決してそんなケチな根性ではないのであります、我が皇道文化の粹ともいふべき古き傳統の京都の染織工藝をば、吾々の力でもつとく守り立てゝこれに十分なる積極性を持たし

め、以て皇道文化世界光被の一翼たらしめやうといふのであります。この點が即ち現在東亞の新秩序に向つて猛進し、やがてはそれを世界の新秩序にまで進展せしめやうとして居らるゝ軍部の推進力と完全に合致する所以でありまして、一言にして盡せば我が京都の世界進出に外ならないのであります。尤もかく申せばとて、吾々は決して古き傳統の殻の中ばかりにゐるものではなく、改むべきものは大に改め、進むべきものは大に進めて、飽くまでも積極的に我が皇道文化の發揚宣布に努力せんとするのであります。それにつき本會今後の事業方針は、篤と皆様と御相談の上、最も有効適切なる方法を講じたいものと存じます。(理事會午餐の席上にて挨拶)

(終)

高島大佐——日本の革新といふものがどういふ風に行はれて來たかといふ事を色々研究して來てをります。さうすると今日迄の私共の結論では、奈良朝から平安朝へ御遷りになつた御改革がかなり理想的なものであると思ひます、つまり皇御國すめみくにの御維新といふものは人間の體の様なものであつて、日に日に御維新が行はれ一人も虐げず、一物も損なはず、あるが儘なる姿に於いて正しく清く明かなる御政治にするといふ事が本當の行き方であります。その意味で奈良朝から平安朝に遷りました御維新は如何なる特質を持つてゐるかと申しますと、神武天皇の御東征以來所謂六合兼都りんとと申しまして、陛下の御座所は期せずして民草が皇化に潤うてをつたのであります。これは當時の、神武天皇の御東征の時代の大八洲の國は、おそらくは今支那に皇軍が征くよりはむつかしい事であつ

た様に判断するのであります。高天原の民族あり、出雲の民族あり、倭族あり、その外澤山の民族が各々蟠居してむつかしい國でした。それを神武天皇が身をもつて範を示され大和に都を遷されたのであります。従つて上代の日本歴史に徴して見ますと都を轉々とお遷しになつてをります。處が外國との交通が盛んになつて、外國人に對して目に見えぬ形式的な崇高さを目のあたり見せねば日本の國の偉大さが分らないといふので、此處に平城の都奈良の都の建設が行はれたのであります。そして佛法といふものを指導精神となされたのであります。これを我々が解釋致しますと當時はやはり文物制度産業方式等の形に表れた美術工藝の指導者は相當外國人が多いのでありまして織物は吳織漢織がこれを傳へたのも一例でありました、その中にはユダヤ人も居りました。これ等の優秀な外國人に對しまして皇道、日本精神又は惟神の道等と申しましてもよく分らない、そこで聖德太子が十七條の憲法に御示しの如く、奈良朝時代には佛法といふ何人にも分る一つの教へで天皇に歸一の道を指導せられたといふ風に我々は拜察するのであります。

斯様に致しまして奈良朝時代といふものは中央、地方兩機構ともに割合立派な總力戦の機構でありました。東大寺、西大寺といふ寺を中心と致しまして、日本の津々浦々に國分寺が出来ました。佛教だけでなく神様も含まれた總力戦機構でありました。處が年を経るにつれてやはり色々な弊害が起つたのであります。その第一の問題は外國のものを主なる對象と致しました關係上、奈良の都といふものは外國の制度を極端に模倣した都であるといふ事、今一つは段々お寺が勢力を得まして日本全國の具體的勢力、つまり經濟の中心がお寺に移つたといふことであります。これを改革するべくなつたのが桓武天皇であります。なるべく血を見ず犠牲を少くして御改革をなさらうといふのが平安奠都<sup>ま</sup>であるとして私共は判断するのであります。其處でこれは過般竹上さんからも承つたのであります、皆さんからも尙いろくくと御教示を頂きたいことでありましてつまり、京都の都といふものは奈良の大規模な都と日本本來の文化を參酌し、日本民族の特性の文化を加味致しましてかなり理想的な總力戦的中央機構としての都になつて居ります。此

の點は此の自覺に基づきまして當時の京都の町の名前、神社佛閣の配置等に就いて御研究頂きましたなら非常に興味深い點が多いと思ふのであります。そのみならず京都を中心として非常に立派な交通通信の設備がたてられたものと判断するのであります。そしてお寺が經濟の實權を握つてましたのでこゝにお寺といふものを奈良においてきばりにした。そして京都には別に勅選のお寺を御建立になつて、陛下の御信任の最も厚い僧侶をお召しになつてこゝに全國が御中心に歸一する總力戰の形態を完成したのであります。斯様にして御座所の移る所に民衆が期せずして集り、こゝに京都中心の御治世といふものが出來上りました。京都が皇都として千年間續いたといふ事は決して偶然でないのであります。日本の歴史に於いても攝政關白の横暴とか色々な事をいひます。その典型的な藤原道長は『此の世をば我が世とぞ思ふ望月のかけたる事のなしと思へば』といつてます。道長の榮華もこれを一面からいへば臣下としてあるまじき豪奢な生活であるが、さ様な豪奢な生活が中央政府に於いて出來たといふ事は、京都を中心の日本の機構

が日本民族の特性に合致して京都が非常に榮えたといふ證左になります。斯様な意味に於いて京都といふ所は永劫に亘つて非常に有意義な處であると思ふのであります。私は御當地に參る度毎に神社、佛閣の配置、山川草木の配置に非常な感激を感ずるのであります。一例と致しまして私共特別大演習にお供をして各地方に參りますが殆ど到る處に於きまして色々な地方的の係争問題があります。電車の問題、道路の問題、橋梁の問題等色々な係争がありますが、その係争問題がなか／＼片附かない。例へば某地方では橋を掛けるのにも某政黨と他の某政黨の地盤の關係で上流の方に十里の處にかけると他の黨の區域になるし、下流の方十里の處にかけると又他の黨の區域になると云つた具合にお互に運動費を出して妨害し自分の地盤に取込もうとする中に十年を経過致しました。其の間の民衆の不便は申す迄もありません。それが大演習となり地方行幸といふ事になると、一舉に解決して橋が架せられます。さうすると民衆は御稜威の光に照らされた處を目のあたりに見、具體的に分るのであります。國體の有難さを抽象的なものでなく目の



あたりに見るといふ證左であると思ふのであります。斯様な事柄は御當地京都に於きましては千年の間に實に洽く植えつけられたところのものであつて、神社、佛閣、山川草木細流のせゝらぎに至る迄總てのものが御稜威の光によつて建設され培はれ、はぐくまれてをります。左様な一つの靈的な教へといふものが、見ず知らずの間にこちらに住まれる人人に反映してをります。その人々が國體の光を仰ぎながら奉仕をするといふ精神が京都附近の建設をやる、それが相寄り相助けて牢固として抜くべからざる皇國文化の偉大なる建設であり、この京都附近の風物であると思ふのであります。日本の國體を如實に證據だてるものは歴代の御詔勅であります、この御詔勅を支那或は歐米の皇帝の出すところのものと比較致しますと劃然たる差異があるのであります。彼等はいつでも、『自分はかういふ偉い者である。お前等はこれに従はなければならぬ。之に従はなければかういふ事になるのだ』といふ傾向でいつてゐます。處が日本の歴代の御詔勅は一つは非常に重大なる御神勅をあげ、そして世界の煩悶を救うて行かなければならない、そ

れに就いては御親から惻々として足らざる事を之を憂へるといふのが、日本の御詔勅の特質であります。もう一つの特質は恰も親が子に教へる様に食物はかういふ物を、着物はかういふ物を着なければならぬ、お金はかういふ風にして節約して餘つたものは貯蓄せよといふ様に、丁度親が子に手とり足をとつて教へる様な事が一つの特質であります。そして何時でも世界、宇宙を覆ふ所の廣大無邊の大理想を掲げてをられるのであります。もう一つは天日が萬物を照らす様な正しさと清さと明るさを持つてゐる中に、何時でも正しき事は斷乎としてやらなければならぬといふ凜然たる御態度を拜察致すのであります。さういふ風な色々な意味合ひの御稜威の御光が千年間都を定められた京都に於きましては理窟でなく如實に建設されてゐるのであります。私は京都の方々にも絶えずお願いしてゐる事がありますが、日本の國體といふものは百萬卷の書物を書いても説明し盡せるものではない。それよりも日本の道は如實な具體的なものでなければならぬ。それには展覽會、博物館といふものがよろしい。御稜威の下に千年間の歲月と日

本全臣民の熱意とを以てきづき上げた展覧會、博覽會、博物館は實に京都を中心とする自然の風物がそれであると存じます。この大風物を皇道の本義、皇戦の本質を辨へながら生命ある事を編輯致しましたならば、竟に日本人のみならずアジア人も歐米人も京都の風物を観光バスなり又來られなかつたら映畫なりで、一見すれば文句なしにはつきり分ります。先程お話の京都の御所の如きは最も典型的なものです。處が今日迄は各個ばらく／＼にやつてをりました。これは狩野探幽の筆であるといふ事は分るが、それが如何なる時代に如何なる背景、如何なる精神からかういふ藝術が生れたかといふ處に重點がなければならぬと思ひますが、それがありません。私は此處に御集りの方々の御關係であらるゝ例へば西陣その外京都附近の各種の藝術といふものが何故非常に高いか、これは決して技巧が優秀なだけでなくして、斯様な環境に培はれた京都の人が金欄に織り込むところの背後の心、背後の心境に非常に尊いものがある、千年間直接御稜威の光に照されそれが血となり肉となり至誠となつてこの藝術の背景をなしてゐる。その迫力が藝

術を高めて行つてゐると感ずるのであります。左様な意味に於きましてこちらでお催しになりました服飾文化會といふものは非常に意味深いものでありまして、一見廻り道の様に見えて實は支那事變の解決、新東亞建設、世界の創造といふ事に對して上げられた本質的な産聲の重要な一部門であると思ふのであります。私共も亦さういふ具體的な皆様方の御體驗を通じて種々御教示を頂き、所謂皇戦の思想といひますか、具體的な政策といひますか、さういふ事に就いて建設を續けたいと存じて居ります。

## 拍手

野村——非常に結構なお話を承りまして、歴史の上から京都の文化の特性を承りまして京都に生れた光榮を感じました。殊に染織と云ふ事と美術とは非常な關係があると思ふのであります。日本に始めて調庸の制が設けられた折男には弓弦の調女には手末の調が課せられました。この女の手末の調とは婦女の織る所の絹、布を貢進するの制度でありました孝徳天皇の大化二年、改新の大詔が煥發せられ、氏族制度から郡縣制度への

飛躍がありました。中央集権が鞏固になつたのでありますが、賦役の法も改められて、新たに租調庸を課し、租には稻米を徴し、庸は夫役に出る代りに物品を納めるのであり、主として布を以て充て、調は租稻以外に土地の物産を納めるのであり、別に調の副物がありません。正調には主として絹、ありぎぬ、糸綿が納められ、調の副物には染料や、繊維や、油などが用ひられました。大化の制は、大寶律令に於て改正され、平安朝に入つては延喜式として敷衍せられました、かくの如く全國から調庸を奉つて居りますが織物が中心になつて居りました。又たその原料になつて居る生糸も重要なものになつて居つて、全國の女が蚕を飼うやうになりましたので、日本國內に蠶を飼はない土地はありませんでした。そこへ宮中の織部司から織物の技術者である排文師、排文生を全國へ派遣せられ、技術を教へたので相當高級な技術が各地方に傳つたのであります。それが今迄すつと傳つて居るのであります。土地によつては消えて居る處もありますが、養蠶、織物と云ふものが日本中至る所にひろがりました。その中心になるものが織部司であり

ますがそれに専屬してゐる染戸と云ふものが染物を司つて居りました。で宮中の工藝の主たるものが染織でありました。正倉院の御物を拜見してみましてもその主たるものは染織であります。その中には西域、中央アジア、ローマ、ギリシヤのものが西域（今の新疆）に入つて來て支那を経て日本に來たと云ふ事がありますが、日本人はそれをこなして悉く日本のものにしてしまつてゐます。正倉院の御物の中には外來のものがありませんが、その文化を同化して作つたものが非常に多いのであります。それを見ると今の技術ではこんな立派な織物が作れないと思れる様な優秀なものも澤山あります。之は日本人と云ふ民族が工藝性に富んで居ると云ふ證據でありまして私共はこの事を誇りにしたいと思ふのであります。工藝性を持つて居る民族は、同時に平和を愛好すると云ふ結論になると思ふのであります。桓武天皇の平安奠都の時にこれに先つて長岡に都を遷されやうとされた十二年もかゝつて計畫されましたがその計畫が一朝水泡に歸して和氣清麿が京都の地を卜して『こここそは千年の都である』と云つたので京都に都が定まつた

のでありますが、その以前に於て京都は外來文化を育てあげた土地でありました。秦の秦氏族が京都附近に長く住んで居りまして相當發達して居りました。秦氏は平安奠都に力を注いだやうであります。京都に都が出来ますと織部司は京都へ移されました。そこで宮中の工藝が京都に参りまして京都が文化の中心となり、工藝産業も朝廷を中心として發達したのであります。この状態は大分に永く續きましたが、後に閥族の勢力が大になり、畏れ多くも、宮廷中心の工藝も漸次に衰へ、遂に宮中の工人も民間へ離散しそこで宮中でやつて居つたやうな事をやり出すやうになりました。それは又日本の經濟が段々發達して來た傾向にもよるのであります。民間に宮中の技術が傳つたのであります。そこで都市手工業時代が開かれた譯で、職業的な新階級が擡頭して社會の地歩を占める事となつたのであります。保元、平治の亂や、承久の亂の後がさうでありまして、織部司も廢絶し、民間へ離散した工人は、春日の大舍人町に移つてをりました、後に信長が上洛して京師の恢復に盡すや、尊皇敬神の道を尙び、朝廷の儀禮も整ひ、衣冠の儀容

も舊に復し、元龜二年には京都の大舍人座三十一人の中から由緒の正しい六人を選び、内藏寮の織物司に勅許を蒙りこれより六人の織物御寮司が定められました。この六人の後裔は明治初年迄傳つて居りました。織物御寮司とか又は六人衆と云つて居りました、その家は今尙一二軒残つて居ります。宮中の工人が街に出て來たのが西陣機業の始めでした。それから染物の技術が發達して慶長から元祿にかけて奢侈の風習が入つた時分に京都の染物が段々發達して参りました。封建の時代徳川氏が到る處に大名小名を封じた時に、その大名小名が悉く京都に呉服所と云ふものを持つて居りました。そして自分の要る處の染織物は京都に出張さしてゐる呉服所で作らせてゐます。特殊なものとしては加賀の金澤藩は自分の處でやらせてゐた例もあります。それで京都の染織物は呉服所の制を経て諸國の小名大名の處に行つて居りました。貞享頃にはその呉服所が五十四ありました、それから御所の御用には禁裏御呉服所と云ふものが室町下立賣邊にあつて、それが一番位が高いものであります。日本の染織の發達をかく歴史的に考察いたします

と、すべて皇室の御庇護の下に發展したのでありまして、宮廷工業の流れを酌み、御稜威によつてはぐくまれたのであり、その染織工藝が民間に有力なるものとなつたのであります。徳川八代將軍吉宗は諸侯に殖産興業を奨勵したので到る處に織物業が發達しました。秩父、伊勢崎、桐生の關東地方の機業や、岐阜、長濱、福井の方にも吉宗の殖産興業の政策によつてその昔に織部司が植えて置いたものがその政策の刺戟によつて再現せられ、機業地の形態が出来上つて來ました。日本の染織物はかくの如く皇室の御稜威によつてはぐくまれたものであつてその染織物が現在の日本文化の重要なものを代表してゐるのは當然であります。そして京都の染織工藝はその最も正しい傳統のものとして傳へられてゐます。我々は新文化創造と云ふ事を今迄は概念的に抽象觀念として云つて來た様であります。之をどうすればよいかと云ふ時に一番日本の染織工藝、殊に京都を中心とするものが大きな作用をするものと思ひます。之からはかくの如くに日本の傳統と文化を象徴してゐるものを貿易商品として世界に出してひろめる事を以て

日本の文化を世界に宣布して行く事が非常に必要だらうと思ふのであります。現在迄の貿易關係を我々が實際に聞くと今迄は色や柄を向うの方から注文して居つた、或ひは日本人が仕向地の事情ばかりを重視し向うの注文仕事ばかりを考へてゐまして、こんな柄は向うにむかんとか、この巾ではいかんとか向うの事ばかり考へて向うに迎合して行く恰好でしたが、神戸の貿易業者の話を見ると最近の傾向は向うの意嚮に迎合して貰はなくてもよい、色や柄や模様も日本のものをそのまま出して呉れたらいと云ふ事になつて來たさうであります。その時にかう云ふ會が強力なる會として——刺戟を當業者に與へ高き指導精神を示すことは全く欣快事であります、京都に傳統的文化として輝いてゐる染織が新文化建設の一つの礎石となつて行けば結構だと思ひます。只今高島大佐から結構なお話を承りまして欣ばしく存じます、私は御所の近くに住んで居りますので御所の水が家の前を流れて居ります。夜半その水のせゝらぎを聞いてゐますと崇高な氣分になつて眠たい眼が覺めてもう一べん勉強しやうと云ふ氣になります。この氣持を何かに

表はしたいと思つてゐますが力が足りないのでありますが、京都人として京都に住んでゐる事を感激してゐる一人です、只今高島大佐から反つて京都の事を聞かして頂いて非常に心強く感じて居ります。

**團城**——先月商工省の方から出てこいと云ふ通知がありました。之は以前工業組合その他で投書したので来た譯なんです。商工省に行つたら之は物價局の話でありましたが『この低物價政策の時代に京都に非常に高いものがある、三越あたりへ行くと何百圓するものが賣れると云ふ事を聞くが、どうもこの時代におかしいではないか、或る程度でかう云ふ高い高級品を作らないやうにしてほしい』と——はつきりはおつらやらないが——さう上の人ではないが、この頃は上の人よりも下の人の方がこわいからお粗末に答へてはいかと思つてお返事して居りましたが——さう云ふ意味の事を云はれるのです『本當に眞劍におつしやるのですか』と云つたら、『色んな噂を聞くから』とおつしやるのです『低物價政策と云ふものは國策としてどこまでも守らなければなりません』

之は物が不足してゐるから物價が騰る、それを抑へると云ふので、有りましたならばそんなに暴騰はしないのであります。さう云ふ事をおつしやれば京都は絹物と最も關係が深い、絹織物は綿布や毛織物の様に正貨を以て獲得するものではありません、絹物は國産品であり、しかも日本全國津々浦々に到るまで蠶を飼はない處は一つもないのであつて、國産品である絹物をいじめるのは農村をいぢめる事になるのでから絹物ぐらひゆつたりして貰はんとかなひません』と云つたら『さう云ふ事を云つてゐるのは時局を認識せんからちや』とおこられました。『絹物は標準がつかんから騰るぢやないか』と云はれるのです。お役所の考へてゐる事と實際とは隔たりがあるので『騰つたら喜んで頂かなければなりません。絹物があがれば外貨をより多く獲得する事が出来ます。十二、三、四年度には相當の外貨が獲得されて居るではありませんか。かう云ふ事を云つては悪いかも知れないが日本中を一所懸命に金山を掘りながら〇億前後しか出なかつたと聞いてゐます。それに相當した金額が金貨で外國から入ればよいぢやありませんか』と云

つたら『程度問題だ』とおつしやる、『外貨が入るのなら、なんぼ程度が過ぎてもいいのではありませんか。』『それが外貨ならいゝが日本があふつたからだ』と。そんな事もありません。之は是正しなければなりません。『兎に角何でも抑へると云ふ事はどうかと思ふ』と云つたら向うも相當色んな事をおつしやいました。『兎に角京都の高級品と云ふものはどうもこの時代によくない、着物なら着物、羽織なら羽織、帯なら帯を或る程度で切ると云ふ事にしたらどう思ふか』と云ふ事でした。『世の中の人はどう思ふか知りませんが私は製造販賣ですから切つて貰う事は営業の上から云つたら結構です。何百圓もするものは一%位で普通の品が九十九%位ですからそんなものを目當に営業はしてゐません。営業の上では大抵損をしてゐます。あらゆる圖案を作つて考案し、それを技術者にやらせるので最高級のものに對しては損ばかりしてゐます。そんなものが無くなつても利益の上から云つたら寧ろ賣れなくても作らなくても結構です。然しそれは自分の営業を可愛がると云ふ點に於て感ずる事であつて、あなたのおつしやる事は大臣の

月給が高いから大臣をやめて貰ほう、大學の教授の月給が高いから教授をやめて貰ほうと云ふのと同じ事であつて、日本全國中の國民の衣服の一%にもならないものを指してあれは高い、之は高いと云つてゐたら絹織物はどうして進んで行くのでせうか。さう云ふものゝ繪を畫いてゐる人は一日に二圓か三圓しか収入のない人でそんな人が一年もかゝつてこしらへたものが何百圓の品物になるのです。之は大學の教授をやめてくれとか或ひは大學と云ふものはいかん、この非常時に親の脛をかじつて親から金を貰うて大學行くのはいかん、皆働けとおつしやるのと同じぢやないですか。(笑聲)之は失言でした。が然しそれはそれで残す必要があるのではないでせうか。お上のおつしやる事ですから何も云ひませんが、國際關係の上に於て絹織物を外國へ輸出せねばならん、それが開戦後絹物の輸出が抑壓されてゐるが日本が最後の勝利を得て聖戦の目的を達した暁には外國へ日本の品物が出るのを楽しみに働いてゐるのです。さう云ふ時になつて品物が送れないと云ふのでは何にもならないのではないでせうか。外國へ送るべきつなぎであると云ふ

風に考へて貰ひたいと思ひます。私は小僧ですから何も分りませんが京都の人口の中七  
八十萬人は染物、織物に關係してゐます。それが直接でなくてもそれ／＼家族の者が關  
係してゐます。それで京都のものは高いから廉いものを作れと云ふ事のお返事は京都を  
代表して來てゐるものとしては出來ません。まあ一べん京都へ來て下さい。實情を見て  
貰へばあなた方のおつしやるやうなものぢやないと云ふ事が分りますから。博物館の國  
寶を潰して下さい。今は片手のとれた佛像が飾られてゐますが將來は女郎の襦袢が國寶  
として飾らんならん様になりますから……。それを作るものが無くなつたら困るでせう  
あんと話して居つてもどうも話が合はん。」と云つたらきつうおこられました。おこら  
れても泥棒をしたのぢやなし悪い事をしたのではないから平氣ですが向うさんは極端な  
事をおつしやるのです。『兎に角一べん京都へ來て頂きたいと云つて置きました。もう少  
しわかる方がおつしやることよいのですが分らん事をおつしやる、私共が分らんのか兎に  
角云ふ事が相反するのです。時局と云ふ事は知つてゐますが、京都の工藝と云ふものを

一時的の爲に潰す事は惜しい事だと思ひます。この頃兵隊さんが澤山御出征になる、そ  
の兵隊さんがさして居られる刀の眞田紐を結ぶ職人が何人しかないので。下手な結び  
方をすると、とけてしまひます、それを今教へてもすぐの間には合ないので。ある方  
面で軍の御用の刀を作つてゐる方が澤山ありますがさう云ふ眞田を結ぶ人がないので困  
つてゐます。之は戦争に欠くべからざるものでありますが、平和になつた時に染物も織  
物も出來ないと云ふ事になつたら取りかへしがつきません。その人が暴利を貪つてゐる  
と云ふのならいけません、或る程度迄さして貰うのは仕方がないと思ひます。この人  
等は生活に困つてゐるのでからこの人の仕事をやめさせて何ぞ教へる事があるのです  
か』と尋ねたら『それは無い』と云ふのです。『一べん西陣の織物なり京都の染物をして  
ゐる場所をみて下さい。丁度蛙が飛び込んだ井戸の中の様な狭い穴の中に入つてがちや  
／＼と機を織つてゐるのです。その職を失うたら取返しがつきません』と云つたら『君  
は一寸能辯すぎる』と云はれました。(笑聲)『私は辯護士ではなく小僧あがりですから



そんなにしやべつてるのではありません。たゞありのまゝの事を申上げてゐるのです』と云つて歸りました。大體は價格問題の下調べだったのですが向うさんがおつしやるからこつちも云つて話に花が咲いたのですが、その時に『いづれ京都に行くつもりである』とおつしやつたから『是非來て見て貰ひたいと云つて置きました。幸ひみえましたので私は非常に多忙だったのですが喧嘩したところですから仲直りをして充分認識して貰ひたいと思ひお供して色々話をしました。兎に角二日間に見て歸ると云ふのであらゆる處を見せると云ふ事でその人と私と色々烏田さんや皆さんのお世話になつて二日間ぶつ通して染物、織物、刺繡の順序から營業ぶりなんかを視察して貰ひました。御當人は技師ですからなか／＼熱心でした。之はたしかに私が勝つたつもりです。何にも云はれませんでした。たゞ『之は手がつけられん』と云ふ事でした。

野村——只今の話に補足さして頂きたいと思ひます。日本の内閣の統計局の統計から見ますと、日本の俸給生活者の平均月収は八十八圓でその中被服費が十圓十八錢、割合

にして十一・五%となります。産業労働者の平均月収は七十九圓十七錢で被服費は八圓八十五錢十一・二%となります。農業者の平均月収は九十六圓三十九錢で被服費は七圓五十九錢で七・九%となります。最高が一・一五%です。大體被服費といふものは住居費と殆ど同じでその約三倍が飲食物費となります。日本全國がさういふ状態になつてゐます。處がその中で絹織物を着てゐる階級は非常に少いです。綿布が（今はありませんが）約八十何%で絹織物の階級といふものは大變少いです。八圓八十五錢、七圓五十九錢といふ數字の中で絹の含まれてゐる分量は非常に低いと思ひます。何かといふと京都の染織業が槍玉に上つて非常に贅澤なものを作つてゐる様にいひますがさうぢやありません。衣服といふ物には經濟的の使命と文化的の使命があると思ひます。その文化的使命を全く無視して實用的な經濟的方面のみを見るから平和産業といふ事をいはれますが、私は今日の時代平和産業といふものはないと思ひます。戦争が始つた時は平和産業と軍需産業の區別をしなければならなかつたと思ふが、今日は平和産業といふ言葉を用ひて虐待せん

ならん産業はないと思ふのであります。染織の業者はなるべく安い値段で強い質の良い物を送つてこれを圓滑に配給する事が一番必要であると思ひます。それが染織業者の戦時経済下の大なる使命であります。いくら戦争時代でも衣服なしには居られないのですから、それを最も安く、最も強く、効果的に美しく、それをうまく流して行く事に努力したいのです。過日、(圓城さんは御承知ですが)私共は染料を配給して貰ひたいと染織関係の十三の組合の人達と一緒に商工省へ参りまして次官、局長、各関係の官吏や商工大臣に會つて歸つたのであります。足らん／＼と度々言つてますが「染料なんかよいぢやないか、白い着物を着たらよいぢやないか、傷痍軍人でも白い着物を着てゐる」と申されますがそれは非常な間違ひです。白い着物を着ようと思へば漂白剤がない。日本の生絲は半分以上黄繭(カーキ色の繭)です。それは白繭よりも強力伸度が高いのです、それを漂白して白い物にしてゐるのです。處がその漂白剤もだん／＼缺乏して参りました。白い物を賣るといふ事が今日既に困難です。傷痍軍人ならばこそ清淨無垢の着物を着て

頂いてゐるのです。我々が白い着物を着たら働けません。色の入れたものを着てゐるかから少々位よごれても目立たないので。清潔を尙ぶ民族性ですから白い着物を着たら働けません。白い着物を着て亡びた國が隣にあります。軍部の方では全部カーキ色にせよといはれます、處がカーキ色にし様と思へば染料の生産機構を全部替へなければなりません。色々な色の染料を作るからどうにかこうにかなるのであつて、一色にすれば生産機構の變更に一億二億の金がかかります。第一日本人全部にカーキ色一色の着物を着せたら日本人はおそらく氣狂になるでせう。色彩が高い文化的の使命をしてゐるといふ事を考へないで實用性の事ばかりいつてゐると思ひます。勿論戦争といふものが俄に起つた時には先づ國を護らなければなりません、長期建設の段階に入つたなら文化を守ります。『戦争は文化の母なり』といふ言葉通りに新しい文化が生れる様にして頂かなければ困ります。日本の室町時代の末期の戦國時代には物資が缺乏して米の飯が食へなかつた。相當な祿高の武士も雑炊をそれも日に二回喰べてゐる、その頃の記録には山に鳥を射

ちに行く時だけは菜飯を作つて貰へるのでそれが非常に樂みだつたと書いてあります。又七・八歳の時母が作つてくれた花染の麻のかたびらが、膝から下のない様な着物を十七八歳になるまでも着てゐたとも書いてあります。それ程不自由をしながら、戦争の時の用意をして食餌や資料や武器を蓄へてをりました。愈々戦國時代から信長、秀吉の天下統一が行はれまして桃山時代になると、俄に燦然たる桃山文化が表はれ來ますこれは一朝一夕に出て來たものでなくて實は國を擧げての窮乏の内いろ／＼の苦心を重ねて保存されてゐたのが表はれてきたのです。さうなればこそ桃山文化の燦然たる輝きが起つたのであります。その頃工藝家に「天下一」といふ稱號があつて、それが工藝家の最高の名譽の稱號でありました。その銘を入れたいろ／＼の工藝品は後世にも残つてをります。戦争の時代で困つてゐるからと云つて文化といふ方面を否定してしまつては駄目です。現在の事を考へたら功利的なものを作つて行くといふ事も考へられますが、一面に於いては京都の高踏的な工藝は中小工業でなければ出來ないものです。商工省で規格の

統一をやるといつてますが、規格統一は大工業生産にやる事で中小工業では規格の統一をやる事は出來ません。それを中小工業に強要してゐるがこちらに持つて來ては出來る筈がありません。技術と實際を知らずして無茶な事を強要してゐるのです。今日會に見えてゐない方にある談論風發な方があります。お名前を申しますと大橋常次郎さんです。『さういふ會に出て希望なんかをいふと睨まれる。そして非常に不利益になるから、さういふ恐い處へは近寄らない。』とおつしやる。これは非常に卑屈だと思はれますが商人と云ふ今日極めて不利益な立場の方からしては無理もない事です、さういふ事は困る事だと思ひます。國家の大きな目的、民族の高い理想を達成せしめる上から見、言論が抑壓されてはならないと思ひます。

**圖城**——京都は狭いから確にさう云ふ傾向があります。昨日もさう云ふ事が表はれてゐました『君子危うきに近らず』で……。私共は自分で悪い事だと思はないから何でも云ひます。が戦争の上に、思想の上に影響する事はこれはいかんが我々のしやべる事が

そこ迄効いたら氣が利いてますか……。

高島大佐——私共皇道すめらのみちの思想から申し上げますと、京都のお話の様な方々が自由主義的な教育だけを受けて實地の経験のない人々を教へて頂かなければならないと思ひます。これは學問の方法なんかでは教へる事が出来ない、實際に即して『お前方の考へてゐる事は間違つてゐる』といふ事を、京都のさういふ方々が營利といふ事を離れて教へられたならば、絶対に呪まれるといふ事はありません。圓城さんが此の間彼等に教へて下さつた事は非常な教訓を與へてゐると思ひます。今色々お話があつた件に就いて、絹絲、絹布の問題に就いて、私共は是の經濟は自から結び自から産むを本旨とする經濟であつて、他方に依存するものではないと思ひます。御承知の様に纖維戰爭を研究して見ると麻があります。これが長い間榮えたのは日本の國土に適してゐる證據です。そこへ入つて來たのが綿絲、綿布です。この綿絲、綿布の世界の戰爭を調べて見ると綿花の戰爭は非常に残酷なものです。綿花をもつて世界を征服する爲にアフリカの黒人を物の様

に考へて、鎖で縛つて賣買したのであります。之はイギリスあたりのユダヤ人の力でした。これが南北戰爭の原因にまでなつてゐます。これによつて綿絲、綿布といふ物には驚くべき世界的に背後に力があるといふ事を判断し得る譯です。その次に入つて來た纖維は毛です。然し日本の本來の國土に適した物は結局生絲なんです。自分の力で結び産み出す事が出来るものを根城と致しましてそれで押し出して行く、かういふ事柄が典型的な皇經濟の攻撃戰爭です、かういふ方向に日本も、東亞も行かなければ本當の總力戦には勝つことは出来ないであります。私等は皇道をさういふ風に考へてをります。従つて今たま／＼お話がありましたがお話がありましたが、節約といふものは一日で破れる靴下では出来ません。なるべく立派な、質に於いても高級な物を作つて、それを長く使ふといふ事が皇の道です。今規格のお話が出ましたが、やはり各個人のを生かして行く事が皇の道であると思ひます。規格重點の産業はユダヤの産業の政策です。今お話の様に規格をきめると、生産者は規格に合することだけを目標とする自身の眞の技術も使用する人の利便も

考へない。こゝに産業者の生命的奉仕といふ精神は全く失はれて終ふのであります。着心地のよい見心地のよいものを作る事は奉仕の精神で、皇の産業の根本精神です。さうすれば自然にお金も儲かります。始めからお金が儲かり規格に合すればいゝといふのは心が咎める譯です。それでは營利が主であつて心から奉仕するものではありません。唯我々が現實の問題として今當局が問題にしてゐるのは、向ふは非常に大量に軍需品其他をやつてゐる。こちらは凝つた職人氣質の物だけをやつてゐては數に於いて叶はない従つて彼れ等がやるからこちらも備へを固くし彼れ等の攻撃に敗れない意味で規格を主とする大量生産もやるのです。即ちこれはどこまでも受身のものであります。併し大量生産は何といつても魂が入りません。例へば日本刀を機械にかけて作つても本當の魂が入らない、我が皇軍が戦に強いことについて將校の心がけがよい、兵隊に眞實があると色々いひますが、具體的に皇軍が強いといふ根本の問題は日本刀であります。非常に原始的な様であります。日本刀の物凄さに對して彼等は辟易してゐます。これは何故物凄

いかといふと魂がこもつてゐるからです。規格といふものと違ふ心の奥底に偲んでゐる魂が日本刀に表れる、これが敵を屈服させる之が皇の産業である。小さい物でも職人氣質で作り上げた魂のこもつた物が皇の産業であると思ひます。高級品を作ることとは低物價政策に反するといふ議論があるさうですが、低物價といふ事は軍の方でもなるべく物價を安くしてほしいといふ事をいつてゐますが、それは豫算が定つてゐる、豫算が決つてゐる物價が上れば豫算を減らされたと同じ事になる。物價公定の技術は専門家に適當にやつて頂いて私共としては今折角苦勞して豫算を認めて貰つたのですから高物價の爲に必要な軍備が出来なくては困ります。實狀に節してどうして行つたらいゝかといふ事は大藏省、商工省の當局の方々が御考へのごとであります。低物價を軍部が強制したといつて皆軍の方へもつてくるのは困ります。事實一面に於いて軍需インフレーションといふ事はどうしても防ぎ得ない。何故かといふと小企業と大企業とはコストが違ふので、大企業には安く注文し小企業には高く注文すればよいのですが今の法規ではそれは出来な

いことになつてゐます。ですから結局大企業にも同額で注文する、これが軍需インフレーションの一つの原因になつてゐます。さういふ軍需インフレーションで潤ふた者が、高級品を買ふのはよいと思ひます。料理屋や待合、或は物見遊山に行けば健康を害し交通の妨げになります。節約して貯金をしなければなりません、剩つた分を皆貯金せよといふ事では杓子定規でうまみがない。儲つた時には立派なよい物を買つて長く眺め長く使ふといふ事は結構な事だと思ひます。立派な物には精神がこもつてゐるから精神修養にもなると思ふのであります。結局皇の道は大自然に順應致しました無理のない道であります。法律規則に根本的の無理がありませんる場合には仲々従つて來ない、又臣民の方でも營利一點張の精神では官民がお互に信じ合ふことが出來ず、益々法規で強制することとなり多數の忠良なる人民を罪人にします。だからどんなに規則を作つても自由主義的な經濟觀念不純な營利的な精神がある以上闇取引、闇相場といふものが出來てだん／＼世の中が暗くなるのであります。皆さんにして一切の功利を棄て御稜威の光に照ら

された御體驗を卒直に其の道の人々に披瀝致されますならば決して縛られないと思ひます。どうか手を替へ品を替へて御體驗を示して頂きたいと思ひます。

**岡城**——只今の規格の問題はよく分りました。絹織物の規格を替へてせばめるといふ事ですが、さうなると絲が餘つて新規に箆から機から替へていかねばなりません。鐘紡の様な大會社はさういふ具合に行きますが、京都の西陣にも何萬臺といふ機があつてその規格には嵌りません。持つてゐるものを遊ばせては生産が減するが、規格外のもの遊ばす事になる。自分の持つてゐる規格外の物で作れば損をするし、規格に合ふものを作る事は尙出來ない。かうして足らん物資が尙足らん方に進んで來る事になる。今お話の通りびつたりと私共のいひたい事を御存知なので誠に心強いです。低物價政策も結構ですが、原價が十圓ついた物を九圓で賣れとおつしやる。十圓の物を十圓五十錢で賣るのならいゝが、これでは（遊んでゐる譯にいかないから作る事は作るが）賣れない。作つて蓄へてゐる。大きなダムには水が澤山あつて川へ流れて來ない。それで需要者は喉

を乾かして無理に飲む、その間を取りもつものが闇です。無い物、作れない物なら仕様が無いがあつて賣らない。損が行くから賣らない。十圓の物を九圓に賣る事はどんな百萬長者でもやりません。十圓五十錢になら皆賣りますが……。何時迄もこんな事はないだらうと無理をして持つてゐます。水はダムについてゐる、この政策は甚だ下手な政策で品物はこの低物價政策では決して出来ません。十圓の物を十三圓で賣れば低物價でなくて闇取引です、闇取引の即ち高物價のやり方ですが、實際素人が理窟通りに着物や襦袢の規格を作るといつても出来るものぢやありません。大體大量にやつたものではないが何萬臺の織機や機を抛つてしまへば規格通り出来ますが……。織るなどはいはれませんが作つても規格に合はないから安くになります。此の間に生絲は大分暴騰して約三、四割の値上を認めた。處が低物價政策であるから値上が出来ない。『これとこれの品物を作れば値を上げてやる。』とおつしやるが、何萬何千種もあるのに二百六十種作つてそれだけ値を上げるといつても無理です。私共小僧から見たらあほくさいと思ひます。處がこ

れが大學出のバツ／＼の方の思想です餘りがん／＼いはれると我々は喰つて行けません物がなくて困つた／＼といつてますが、外の品物は知りませんが絹物は不足しません。繭の産額は生糸にしては最低七十萬俵ですが、實際は八十萬、九十萬俵の繭がとれてゐます。輸出がその中二十五萬・三十萬俵で、あと四十萬、四十五萬俵です。節絲せじを入れて五十萬俵になりますから、繭は相當蓄つてゐるわけです。繭はあるが女工が足らん、電氣が足らんといふので、肝心の需要者にあたらんといふ現状です。それを此の間東京へ行つて代議士に喧しくお頼みして來ました。理窟をいへばそんなに無制限に出来ないとおつしやる。此の頃生絲も切符制度になりました。切符制度は結構ですが、人絹、綿布の當時相當無理をして申し込んでおかないと入らないので、これは業者の間違つた考へですが、皆餘計に申し込んだ。人絹の時には三割しかくれなかつたから三倍申し込んだらよいだらうといふ具合で、私が調べて見たら九十萬俵を出てゐました。すると九十萬俵も出たから届けの三割渡せばよいだらうと三割渡す。こちらは三割しか出来ないの

で相場がどん／＼上る。さうすると素人は家の娘にと來年の分も再來年の分も買ふといふ風になつて悪う／＼になります。こんな下手な政策といふものはありません。じつと見えますが原理を知らないのであほらしくなつて來ます。一寸ども過ぎてゐると思ひます。現在その通りです毛織物綿布は知りませんが、せめて絹物は普通に放つておいて我々に任じておいてくれたらよと思ひます。金持で見込みをする者は國策に反するから縛つて貰ふ。又どん／＼買ひ集めて庫につめ込んで置く者は極く少數ですからさういふ商人は掴まへて取締つて頂きます。それを町内にベストが出たからと金網を張つても病氣はよくなりません。一匹の蠶の爲に其の町内に亞鉛ごたんを張つてガン／＼やつて鼠を掴まへるといふのですからたまりません。

高島大佐——私共軍隊で兵を教育しまする際お前は背が高いから屈め、お前は低いから伸びよといつても、自然に出來たものであるから仕方がない。此れ衆をして各々その處を得しめて團結力を作るのが皇の統帥であります。現在の經濟の問題でも直接に御稜

威の光を多分に受けて居られる京都の染織とか絹織物とかいふ方面に於かれましたも、組合商工會議所等中間に立たれる方は上からはかういつて來るし下からはかういふといふので窮地に立たれる事があると思ひます。一つ組合といふ様な處で、皇の道である天皇歸一の精神で、お互が自肅自戒し合つて先づ營利といふ觀念を棄てる、棄てるといつても損をする譯には行きませんが、お互にその處をうまくして大企業、小企業の方もあるから折合をつける様にして、上の方で大局的に心配してゐる事も此の範圍内で處理するといふ風に組合で世話して頂きたい。中に悪い者があれば組合そのものゝ名譽を害する者であるとして、組合の中で排斥して貰ふ様に處置して頂くより外仕様がないと思ひます。

岡城——まあ事變の目的が達成する迄、何年間、何十年間かゝるか分りませんが、我々は無論どこ迄も當然果すべき義務を果して、お國の爲に御奉公申し上げたいといふ氣持を、かゝりの間はどうか知りませんが、今日はその點で認識を充分深くしてをります



し、勿論心得てをります。同時に事變の目的達成までこの京都のかういつた者は、決して利益を得ようとか、我々の社會の營業の秩序を亂す様な事は一寸もないから、そんな馬鹿げたものを作る事は出来ません。事變處理の達成する迄(我々の營業と申しますか)産業を出来るだけ御辛抱願つて、こちらは何處迄も御奉公申し上げる氣持は動かんですから我々の産業は平和産業でありますが、寛大に眺めて頂いて物足らんと感じられる點も多いと思ひますが、その點充分自肅自戒しまして、物足らん點は御辛抱願つて、共に耐えられる程度迄やつて頂きたいと思ふのであります。これは何時も出る處でお願いしてゐるのですが……。

高島大佐——私は皇戰の件に關しまして、先程野村さんがおつしやつた様に平和産業といふものは嚴密にいふと大變意味が變つて參ります、例へば京都の服飾なんかは他では出来ないものです。我々の力のみで出来るものです。その意味で寧ろ平和産業ではなく世界に對する經濟戰爭の中核部をなす精銳部隊なのであります。

岡城——今の輸出の方の染織ですが京染關係のものが少し事變前からさういふ方に向いてをつたのですが、又事變が起つて輸出迄振り向けられなくなりました。流行言葉の輸出といふ事では十分に充分力を盡してやつたら、何年か先には當然出るだらうと思ひます。アメリカあたりでは日本に對して色々の氣持を持つてゐますが、アメリカ婦人なんか西陣織物を喜ぶに違ひありません。處がそこ迄繋げないのです。坊さんの架装の古いのをテーブル掛にしたり、友禪類の古いものを合はせて色んな物にして飾つてゐます。美術的友禪である京染をアメリカ人なんか喜ぶに違ひありません。何處へ行つても機械でやる事はやるが手の先きでやる事は實際出来ません。日本ばかりです。先年アメリカの方が(日本最負の方かもしれません)アメリカとの關係を軟らげるのに西陣織物や京染をなんとかやらんかといつて頂いて骨折つて貰つて居ります。此の間東京へ行つて情報部長の須磨さんにいひましたら「アメリカへ行く考へはいゝが君の理想通りにはなかくゆかない。京都としてそこを見て頂くのはいゝ事だが、直ちにどうするといふ事は

出来ない。渡航する事は出来るが困難だらう。』とおつしやいました。日本の話とアメリカの話と較べると、日本はお粗末な生活ですね、アメリカではワイシャツでも一遍着たらほつてしまふさうです。見方にもよりますが……。唯國際關係關、稅關係がうまく行かないので随分高いものになりますが、これを少し軟げたら京都の織物はなんぼ作つても足らなくなります。それ迄やめておく譯には行きませんから、今こゝで辛抱してお金を儲けた人に税金を拂ふつもりで買つてもらへば、今度は日本人には遠慮してもらふといふ時期が來ると楽しんでをります。

**高島大佐**——その點は宣傳せなければなりません。アメリカでは殊に宣傳に莫大な金を使つてゐます。日本の生命に對抗する合成纖維のナイロンを發明して織り出したデュボン社では日米離間の宣傳をやつてゐます。經濟斷交をすれば自分の會社が非常に繁昌するため大規模なこの種宣傳、思想戦をやつてゐるわけです、市場の獲得をするためには思想戦が必要です。京都の服飾は藝術的に高いものである事が分らないのですから

これは藝術を教へるといふ意味に於いても、實際に於いて思想戦迄やらなければいけないと思ひます。研究會あたりで今後の御事業としてやつて頂きたいのであります。

**浦田**——最も考へてゐる點でした、海外に向つてやりたいものです。

**圓城**——何とかしてアメリカの市場に京染を出せば、一躍京都の市場は倍になるのですが……。現にアメリカ人が夏にハワイへ避暑に來ますが、日本の劍劇の侍の友禪を作りますととても喜んで買ひます。何にするかといふと寢衣なんかにするさうですが、同じ物で柄を替へない方がいゝらしいです。日本の武士道の模様なんかを非常に喜びます。始から何百何千出てゐます。アメリカの本土の方にさういふものがないから土産に持つて歸へるのです。避暑に來て土産に買ふ位のもは私共がキャラメルを買ふ位に思つてゐるのです。關稅が高いので人絹程度の悪いものですのに非常に高いものです。

**高嶋**——アメリカで日本人の經營してゐる商會社なんかで俸給を拂う代りにさう云ふものをやると云ふ事は出来ないでせうか。さうしてあゝ云ふ反物を通じてアメリカ人

にそのよさを味はさないと駄目です。世界に茶戦争と云ふのがあります。之なんかイギリス人が紅茶を飲み出したのは思想戦を通じてであります。味はさしてみても、『之はうまいと云ふ味を味はさす必要がありません。喰はず嫌ひでは困る、それから一面に於ては之でなければならぬ』と云ふ事を有力な宣傳部を設けて宣傳する事です。甚だ具體的な事をお願いする様であります。組合なり何なりで一つ最も優秀な適任者を編成されて海外に向つて一つ積極的に宣傳すると云ふ事に發展してほしいと思ふのであります。之は相當やつて居られると思ひますが、組合でもやつて居られるのでせうな。

**岡城**——何も出来て居りません。

**野村**——日本中央蠶絲會が年額百萬圓を宣傳費に費つて宣傳してゐます。之は六、七年前から出してゐますが向うでは百萬圓位どうにもならんさうです。

**岡城**——それは生糸の宣傳です。向うに生糸を使つて貰う爲にやつてゐるのです。が京染の様な色々染上げた加工品に對しては相當處ではない、何もやつてゐません。

**高嶋**——知名な人が來たら宣傳代りに贈物にするよろしいね。

**野村**——こゝにいらつしやる奥村さんや私共が先驅して私共の組織して居る染匠俱樂部と云ふ團體で大分やりました。之は餘程効果がありました。ドイツ、イタリヤ、タイ亞細亞の防共聯盟の國々の人などを對象として京都へ來られる度毎に京友禪を贈り、又昨年藤原銀次郎さんが獨伊へ行かれた際にも、ヒットラー總統、ムツソリーニ首相その他の人々に京友禪を贈り、又機會を掴まへてはいろ／＼に日本の染織工藝の優秀なことを認識させてゐます、奥村さんが個人でイタリアの經濟使節全員に黒羽二重紋付羽織を贈つたこともあります。かうした文化團體としての仕事に對する京都の人々の理解は非常に低いのは全く驚きます。特に指導的な機關に屬してゐる人々にその傾向があるのは意外に思ひます。然しかうした運動は相當効果がありました。

**高嶋**——海外に大使館武官として行く時等一番悩むのはお土産です。日がさし迫つて來るので手近な好い加減なものを集めて持つて行きますが、最後迄喜ばれるものは日本

の藝術です。高ければ高い程喜びます。そして二回目に行つた時はそれを見せて『之は六、七年前に頂いたものですと云つて喜んで居ります。京都の製品でテーブルかけでもよろしい。外務省邊りと聯絡をおとりになつて『今度は誰々が行く』と云ふ時には土産に實費でもよいし、或ひは買つて貰つたらよろしいからさう云ふ具體的方法を考へて頂けたら自他共に喜びます。

**團城**——その點はそこ迄考へませんでした、外國へ行く人があつて横濱までうんと京都の友禪裂を持つて行きましたが急におやめになつたのでそのまゝ東京にはつたらかしてあります。たゞ持つて行つて貰うても駄目ですがバラ撒いて頂く方ならお頼みしやうと思つてゐます。

**野村**——金を出す處がないと……。

**高嶋**——留學生なんかと買つて行く便宜を與へるとよろしいね。彼等は旅費は貰つてゐるのですから。……

それから贅澤な様ですが壁紙なんかこちらの織物でする様になれば莫大な市場獲得になります。大發展をすれば關稅の障壁は需用者の輿論で撤廢してしまふ様な處まで行くと思ふのであります。さう云ふ風な事を段々助長して行く事が皇の經濟戦争であります

**野村**——京都へ泊る外人は着物を買つて歸ります。四十枚買つたとか五十枚買つたとか云つてゐます人もありました、それをどこで買つて歸るかと云へば新門前にあるさう云ふものを専門にしてゐる店からです。それは實にひどいものです。我々がそれをみたら國辱と思はれる程のものを實に驚くべき高い價に賣りつけるのです。そんなものが貿易品として行くので本當のものが行きません。さう云ふ粗悪なもので外國人の低い文化認識に迎合する者を暴利をむさぼつて不正な商賣をする者は撲滅せんといけません。そ

ういふ不正商人が京都の貿易業者であり、絹物屋と呼ばれてゐます。それがホテルのガイドマンと結託してゐるので滞留外人が大丸や高島屋へ行つて買物をしたと思つても貿易業者が大丸の閉店時間迄自分の家にお客を置いておいて百貨店の閉店時間後に

それから行かせるからもう買へないと云ふ様な無茶苦茶な事をして暴利を貪つてゐるのです。この附近にもありますが、さう云ふのは警察に出勤してもらつても撲滅して貰はなければ我々の理想とする正しい強い、そしてどこまでも伸びて行く貿易は出来ないと思ひます。

浦田——さう云ふ事位はこつちでやつてもよいですよ。

野村——殊に暴利の對象たる商品の内容が文化的にあまりに低劣である事は全く國辱です、さう云ふ曲つた歪められた文化が向うへ日本文化を代表するものとして行くのですから全く困ります。

高嶋——京都の方々がもう少し積極的にやつて頂きたいですね。テーブルかけとか壁紙とかをこつちの生産品でやつたらすばらしいものになりますよ。

野村——いつか竹上さんのお話だつたと思ひますが京都のホテルはベットに悉く絹の寝具にする、外人として絹織のベットに寝るのは非常に贅澤ですが、絹のベットに寝る

と云ふ事を京都のホテル全部がしたならば、あの柔かい觸感、暖か味を味はゞさして絹物のいゝ處を見せたらよいと云ふ事を云つて居られましたか……。竹上さんはホテルを御經營になつてますがさう云ふ風にやつて居られるかどうか存じませんが……。

高嶋——この會も絹の絨緞、絹の窓かけの部屋でなければ會合をせんと云ふ事になさつたら……。

野村——古事記や日本書紀の始めから絹が出て來るのですから皇匠すめらたぐみの最上のものです

高嶋——さうですね。

野村——丸紅さんは外國の方がこられると大方贈られてさう云ふ運動をしてゐられま

す。

浦田——ウ、ン。

高嶋——その他の漆器などは氣候風土が違つて毀れたりして具合が悪いが織物等は永久のものですから随分需要があると思ひます。オペラの幕なんかにでもその好みと味は

ひが分りだしたら大したものです。

岡城——絹物についてはよく分つてゐるのですから認識すれば他のものゝ宣傳と違つて早く擴まると思ひます。絹物と云へば靴下位、織物は羽二重を織つてゐますが友禪なんかは殆ど少ないです。絹物をお蠶と云つてゐますがこれ位味のよいものはありません肌につけるのでも毛織物なんかじかに着たらしくいやく／＼してたまりません。(私の着るのは安物だからでせうが)お蠶に限りますね。

野村——烏田さんのやつてゐられる巧趣花と云ふ團體に大分犠牲を拂つて貰つて紋お召の裂地を澤山提供して頂きそれをヒットラーやムツソリーニ贈る寫眞帖の表紙に裝幀しました。そして之が日本の着物になる生地だと云つて送つたら非常に喜んだ手紙が來ました。随分澤山の縫取の中からよつてしたのです。

島田——非常に結構でした。

高嶋——ぜひさう云ふ仕事をして頂きたい。

野村——機會は相當あると思ひますが、京都にはさう云ふ事をする費用がないのです我々はいつでもさう云ふ意義のある文化事業を積極的にやる金の出所に苦心するのですいつも關係者は個人としていろ／＼支出する、他人が見ると全くつまらぬ道樂にしか過ぎません。

岡城——四條の橋のかけかへをあのまゝで待つて貰つてこちらへ出して欲しいと思ひます。何十年に一べん水がついたと云つて、あれをかけかへる金があつたらこつちに廻して貰へたらよいと思ひます。

高嶋——そんな他力に依頼されずにやつて頂きたいものです。

野村——さう云ふ點で京都の工藝染織を輸出もの同様の取扱ひをしてくれと云ふ事を染物の方から商工省に陳情してゐます。本會でも商工省に云つたらよいと思ひますがどうでせうか。さうしてくれると染織工藝の發展上非常に都合のよい事があります。京都でこれからの輸出貿易の最も適切で有望なのは第一に工藝的な染織物ですから……。

岡城——無論聞いてくれたら非常に結構ですが……。

野村——聞かせたらどうです？。

浦田——輸出リンクとすればよいでせう。

野村——輸出ものと同様の取扱ひをしてくれないと駄目です。

浦田——承れば染料なんか輸入を要するものがあると言ふ事ですが……。

野村——どうしても高級品は遺憾ながら日本の染料では染まりません。だからどうしても輸入染料を使はなければなりません。

浦田——さう云ふ事は不可能ときめないで大いにやつて貰つたらどうですか。大いにやつてみたらよいと思ひます。もうこの頃は統制経済になつたらひつこんで居つたらだめです。ひつこんで居つたら向うの勝手にします。だから勝手にさせないやうにこちらから出て行つて振子を廻して向きをかへなければなりません。

野村——日本には経済統計が殆どありません。

浦田——さう云ふ特殊な事情が分つてゐないので。

さつきの岡城さんのお話の様ななく／＼遼遠です。がさう云ふ風に一步步分つて貰へば心強くなります。

野村——今迄の日本の文化は西洋人を通じてみてゐます。能樂が日本文化を代表してゐると云ふ事も西洋人が云つてゐるのを受賣して云つて居るのです。西洋人が發見した日本文化を日本の識者と呼ばれる人々が受賣してゐるのです。が今度は皇道の立場から独自の日本文化を昂揚しないと駄目です。

高嶋——イギリスあたりで日本の大使館武官が行くときは奥さんをつれて行きます。その奥さんの衣裝を數軒の有名な衣裝屋の一つに注文する様になつてゐます。するとこちらでなら丸紅とすると高嶋夫人は丸紅で衣裝を作つたと云ふ事をべか／＼と宣傳するのです。さう云ふやり方は参考になると思ひます。『イギリスの大使は京都の西陣で窓がけを作つた、それは非常に藝術に理解があるからだ』と新聞に廣告するのです。すると

その宣傳が効いて『おれも藝術に理解があるぞ』と云ふので他のものが買う様になります。

浦田——高島大佐殿、どうも大變ありがたうございました。座談會はこれで打ちきりまして、後は會の事で御相談致したい事がありますので會の方はお残りを願ひます。

昭和十五年五月十五日 印刷  
昭和十五年五月二十日 發行

非 賣 品

發行者

京都市中京區西ノ京伯樂町二四ノ三  
國 司 宣 教

印刷者

京都市下京區東洞院通佛光寺下ル  
土 山 富 三

印刷所

京都市下京區東洞院通佛光寺下ル  
土 山 印 刷 所

京都市烏丸丸太町下  
京都日日新聞社内

發行所

日本服飾文化會



終